

第 63 回 (2024 年度) 研究発表会 若手優秀発表賞 受賞者

第 63 回研究発表会および現地見学会実行委員会

事業計画部

宮城大会において研究発表を行った若手発表者(申込時の年齢が満 35 歳以下)の中から、以下の方々を優秀発表者として表彰することといたしました。受賞者には、実行委員会より賞状と副賞を贈呈いたします。また受賞者による該当テーマに関する**学会誌論文投稿優遇措置(※)**を設けておりますので、研究成果の投稿をぜひお願いいたします。

■若手優秀発表賞 受賞者

【口頭発表部門 (発表番号順)】

- ・ 1-5 草野 恭真 (山口大学)

「動的載荷リングせん断試験における粘土の繰返しせん断特性 (第 3 報)」

- ・ 1-17 Yuhao REN (Gunma University)

「Dynamics of rock-ice particle flows: numerical simulations with discrete element method」

- ・ 1-20 Yuanying LI (Gunma University)

「Assessing post-fire soil properties related to landslides in the eucalypt forests of south-eastern Australia: a laboratory burning simulation study」

- ・ 1-22 李 長澤 (京都大学)

「On the Dynamics of Rockslide and Rockfall: insights from an improved 3D Discontinuous Deformation Analysis」

- ・ 1-29 ウィンティリマウン (国土防災技術株式会社)

「3 次元点群モデルによる地すべり地の治山施設損傷状況の把握」

- ・ 2-20 須郷 大地 (東北大学)

「豪雨時の斜面安定解析における三次元極限平衡法の性能検証」

- ・ 2-24 高橋 悠介 (国土防災技術株式会社)

「質点系ダンパーモデル (LMDM) による銅山川地すべりの移動量解析」

- ・ 2-25 宮澤 駿太郎（一般財団法人 砂防・地すべり技術センター）
「3次元モデルを活用した月山地区における対策工効果予測（その2）」
 - ・ 2-27 木下 英樹（応用地質株式会社）
「怒田・八畝地すべりを対象とした2種類の干渉 SAR 時系列解析の比較検討」
 - ・ 3-26 山口 朱莉（東京都市大学）
「2020年台風 Molave の豪雨によりベトナム中部山岳域で発生した崩壊の分布と崩壊発生プロセス」
 - ・ 3-28 中島 悠介（日本工営株式会社）
「崩壊現場における3次元落石シミュレーションを用いた落石対策工の検討」
 - ・ 3-29 古山 淳一郎（日本工営株式会社）
「深層学習を用いた地すべり地形判読補助の評価事例」
 - ・ 3-32 宮城 昭博（一般財団法人 砂防・地すべり技術センター）
「由比地すべりにおける不規則波形を有するせん断層の推定」
 - ・ 4-11 林川 敬行（日本工営株式会社）
「自動設計を用いた貯水池地すべりの対策土工形状の検討」
- 【ポスター発表部門（発表番号順）】
- ・ P-24 武田 龍征（山口大学大学院）
「せん断面付近の礫が粘土の残留強度と含水比分布に与える影響」
 - ・ P-39 深沢 洋規（国立研究開発法人土木研究所）
「地すべり対策事業マネジメントにおける3次元浸透流解析の活用法の検討」

■審査方法

【口頭発表部門】

候補者 45 名に対して、事前審査と当日審査を行った。事前審査は、候補者 1 名あたり 3 名以上の審査員により、講演要旨に対して 3 つの項目（研究内容、研究レベル、原稿の完成度）について 5 段階評価で採点した。当日審査は、候補者 1 名あたり 2 名の審査員により、発表内容や質疑応答での対応についての評価を行った。事前・当日審査の総評をもとに、実行委員・事業計画部が表彰者を決定した。結果的に、合計得点上位の 14 名を表彰者とした。

【ポスター発表部門】

候補者9名に対して、事前審査と当日審査を行った。事前審査は、候補者1名あたり3名以上の審査員により、講演要旨に対して3つの項目（研究内容、研究レベル、原稿の完成度）について5段階評価で採点した。当日審査は、候補者1名あたり3名の審査員により、研究内容、ポスターの出来栄え、発表態度などについて評価を行った。事前・当日審査の総評をもとに、実行委員・事業計画部が表彰者を決定した。結果的に、合計得点上位の2名を表彰者とした。

なお、本表彰は、ポスター部門、口頭部門それぞれ複数回の表彰を行わないこととしている。

■審査員（順不同・敬称略）

・第63回研究発表会および現地見学会実行委員会

森口周二、高見智之、鄒青穎、荻野俊寛、橋本修一、渋谷保、梅村順、本山功、三辻和弥、山川優樹、押見和義、荻田茂、細谷健介

・事業計画部

佐藤剛、土志田正二、茂木俊、井上宏、井田晃司、稲葉一成、岩佐卓実、大村泰、神山嬢子、楠本岳志、小林豊、相楽渉、高島誠、丹野正浩、沼宮内信、村上亘

・口頭発表座長（副座長は省略）

山崎新太郎、千葉伸一、土井一生、網野功輔、渡壁卓磨、大澤光、伴博史、王功輝、蔡飛、佐藤浩、山口裕二、鈴木真悟、原勝宏、梅村順、佐藤匠、木村誇、山本佑介、濱崎英作、山科真一

※学会誌論文投稿優遇措置

受賞者が筆頭筆者として、受賞した発表に関連する内容の原稿（原稿区分は問わない）を日本地すべり学会誌に投稿する場合、その費用が免除される（ただし、カラーページ費用、超過ページ費用、別刷費用は免除対象に含まない）。優遇措置を受けられる期間は受賞から3年間である。受賞者にはこれを機に研究成果の投稿をお願いしたい。